

核燃料サイクル工学研究所敷地における
平成 23 年東北地方太平洋沖地震により発生した
津波の津波高・浸水域等の概略調査結果に係る報告書

目 次

| | |
|--------------------------------|---|
| 1. 津波の調査結果..... | 1 |
| 1.1 はじめに..... | 1 |
| 1.2 津波概要..... | 1 |
| 1.3 津波の痕跡高概略調査の結果..... | 2 |
| 1.4 核燃料サイクル工学研究所における津波の影響..... | 4 |
| 1.5 まとめ..... | 4 |

1. 津波の調査結果

1.1 はじめに

平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震により発生した津波について、核燃料サイクル工学研究所敷地に襲来した津波について整理したものである。

1.2 津波概要

平成 23 年東北地方太平洋沖地震により発生した津波の各地の主な観測値を図 1-1 に示す。津波は、日本の太平洋岸ほぼ全域にわたり確認され、津波高さは太平洋岸北部で大きい傾向にある。

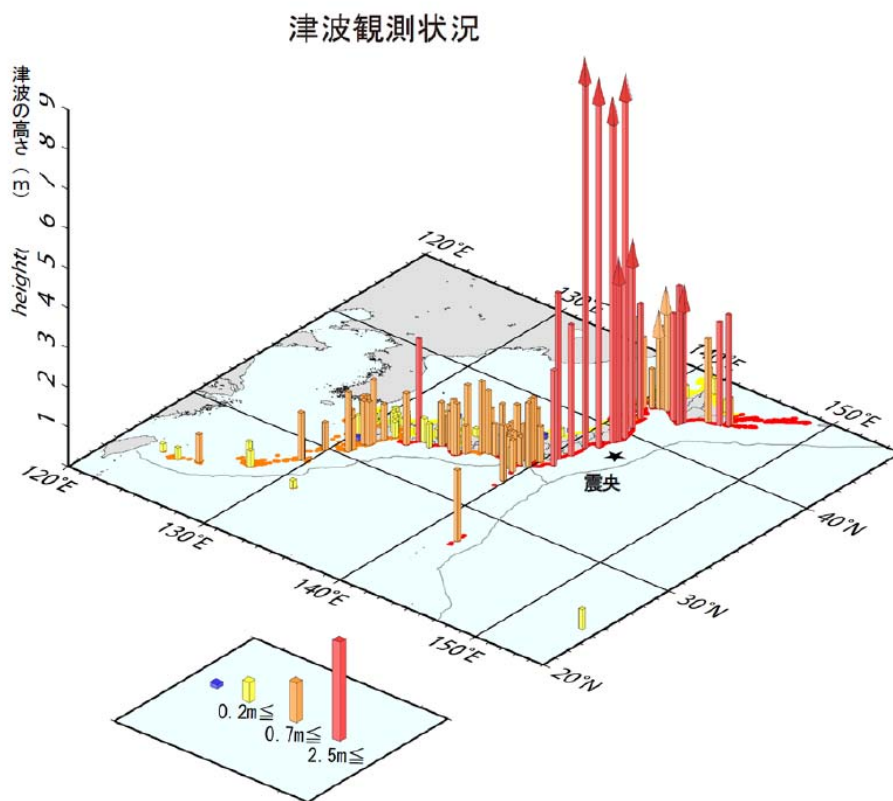


図 1-4-1 津波観測施設で観測された津波の高さ

矢印は、津波観測施設が津波により被害を受けたためデータを入力できない期間があり、後続の波でさらに高くなった可能性があることを示す。

観測施設には、内閣府、国土交通省港湾局、海上保安庁、国土地理院、愛知県、四日市港管理組合、兵庫県、宮崎県、日本コークス工業株式会社の検潮所を含む。

出典：気象庁

平成 23 年度災害時自然現象報告書

「【災害時地震・津波速報】平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」(平成 23 年 8 月 17 日)

図 1-1 主な観測点の観測値

1.3 津波の痕跡高概略調査の結果

核燃料サイクル工学研究所敷地及び周辺の現場調査により確認した津波の痕跡高及び痕跡が確認された範囲を図 1-2 に示す。

今回の津波襲来による核燃料サイクル工学研究所敷地内における津波の痕跡高は標高+4.7m～+5.6m*（暫定値）であり、遡上高は標高+5.6m*程度（暫定値）であったと推定される。

※地殻変動による地盤の沈降は考慮していない。

なお、用語の定義は以下に示すとおり。

- ・痕跡高：建家や設備等に残された津波の痕跡の高さ（標高で表示）
- ・遡上高：海岸から内陸に津波が及んだ高さ（標高で表示）

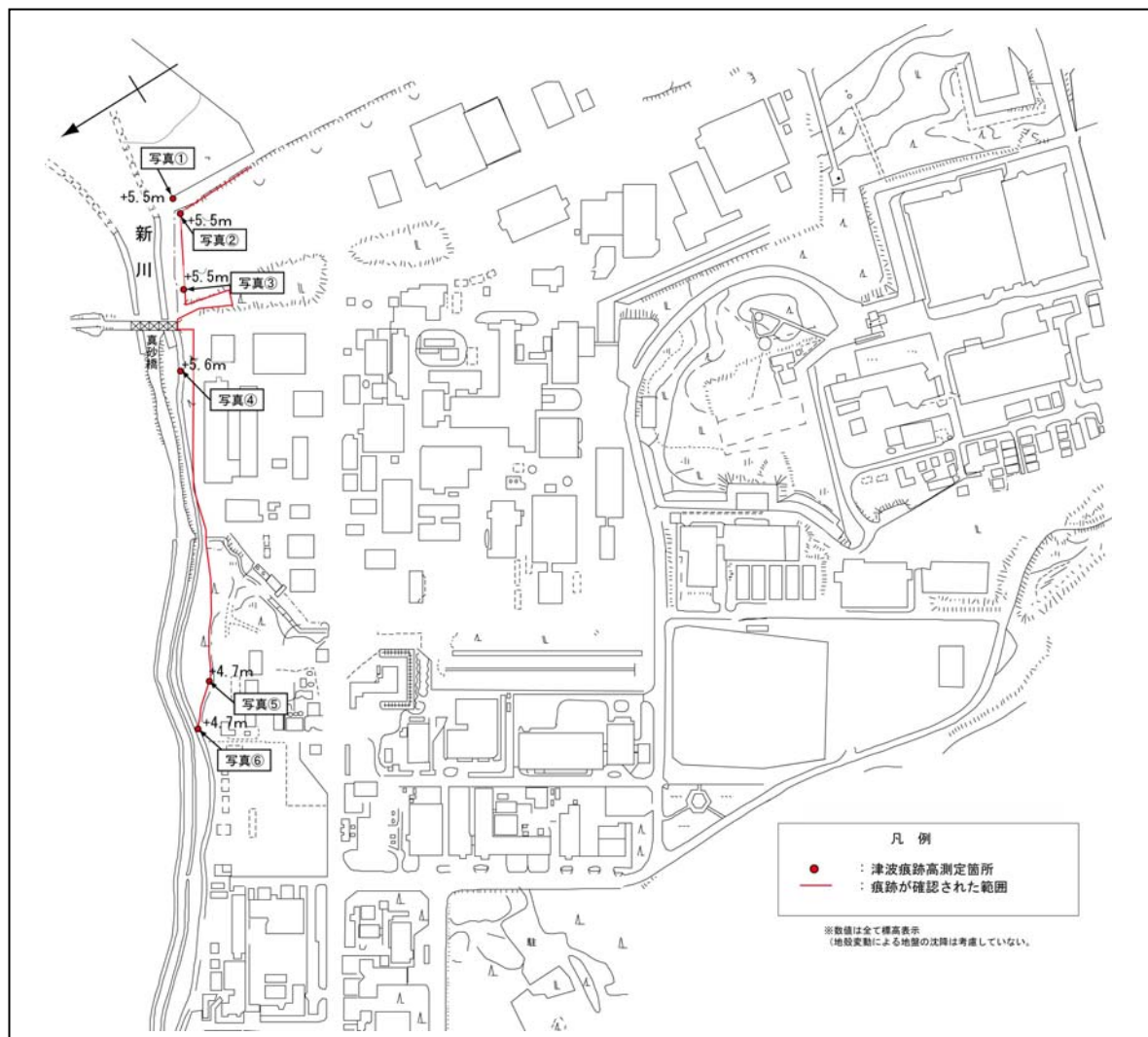


図 1-2 核燃料サイクル工学研究所における津波の痕跡高及び痕跡が確認された範囲

写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥



1.4 核燃料サイクル工学研究所における津波の影響

平成 23 年東北地方太平洋沖地震により発生した津波では、再処理施設の設置レベル（標高約+6m）に津波は到達していない。

1.5 まとめ

平成 23 年東北地方太平洋沖地震により発生した津波について、現場調査により痕跡高等を確認した結果、遡上高は標高+5.6m^{*}程度と推定される。今後、核燃料サイクル工学研究所敷地内及び敷地周辺の痕跡高や遡上高等について、詳細を把握する。

※地殻変動による地盤の沈降は考慮していない。

以 上